



見て学び、読んで学び、やって学ぶ

国際学部 赤坂 雅裕



福岡県の中学校教師等を経て、2008年に文教大学に着任。専門は、道徳教育と特別活動。「豊かさゆえの貧困」が年々深刻化し、規範意識の低下や思いやりの欠如が甚だしいが、道徳と特別活動を響きあわせて、子どもの望ましい人格形成を図ろうと研究を進めている。最近の著作物は、『人を愛する教育～ペスタロッチと東井義雄に学ぶ～』『「協育」～いま、手を取り合うとき～』『やさしく学ぶ特別活動』。現在、茅ヶ崎市教育委員会教育長職務代理者も務めている（あかさか まさひろ）

現在、国際学部で担当している科目は、「教職概論」「教育原理」「社会科・地歴科教育法Ⅰ～Ⅱ」「社会科・公民科教育法Ⅰ～Ⅱ」「道徳教育指導論」「特別活動論」「教育実地研究」「教職実践演習」「総合演習」「ゼミ」。(文学部の「特別活動論」も担当)

これらの授業の中で、実践的指導力のある教員を養成しようとしている。

1. 憧れを抱く —見て学ぶ—

「大学の講義で、これほどまでに泣いた講義はなかったと思う。」

「今日の講義、私は鳥肌がたった。『子どもに希望を与える教師』、先生の授業を受け、私も希望を与え、生徒の夢を実現することができる教師になりたいと心から思った。」

私は、「思春期の難しい子たちの道徳性を育む道徳授業とは」を言葉で説明するだけでなく、必ず、学生たちに、その実際の授業を行ってみせる。学生たちは、私の授業を中学生に戻って体験し、「思春期の子の心を打ち振るわす道徳授業とは」を具体的に学ぶ。道徳だけでなく、特別活動の授業でも範を示す。授業後、「私もこのような授業をできるようになりたい」と憧れを抱く学生が出てくる。

「教育は態度によらしむべし、言葉によらしむべからず」(福沢諭吉)。

教育は言葉で言って教えるものではなく、やはり、態度で見せなければ、ということ。

教職教育学においても、この視点は実に重要である。学生たちは、私の提案授業を見て、その授業を行う意義を深く理解し、授業実践力を培いたいと意欲を高めていく。

2. 原理をつかむ —読んで学ぶ—

優れた授業(実践)には、必ず原理的なものが貫かれている。学生たちは、私の授業を見て学んだ後、私の著作を読んで、授業実践の底に流れていた原理をつかんでいく。

○教師は、教壇にはいつも機嫌のよい笑顔で立ち、子どもたちの心がパッと明るくなって、クラス中に活気が出るような、そんな存在でなければならない。

○授業の基本は、教材と発問である。授業力の中心は、教材開発力と発問力である。

○「教える」は二流。一流は「気づかせる」。

○過剰な教えは、子どもにとって過小の学びとなる。

○感動は、すぐれた授業を成立させるための大切な要素である。

感動は子どもたちを変容する大きな契機になるからである。

○教師が教壇で行う一斉授業へは「集中」が続きにくい。導入・展開・終末という授業の流れを大切にすること。学習方法もグループワークなど動きのある形態を組み込むこと。

道徳講義では、『子どもに学ぶ道徳授業』、特別活動講義では、『やさしく学ぶ特別活動』、教育原理では、『人を愛する教育～ペスタロッチと東井義雄に学ぶ～』を読みこなしていく。

3. 身に付ける ―やって学ぶ―

見て学び、本を読んで原理を学ぶことは大事である。だが、それだけではほんものとはならない。言葉だけの授業は、風のように学生の上を通り過ぎていく。見て学び、読んで学んだことを、学生が主体で実際に授業としてやっていくことが必要である。あらゆる才能は実践の場で育つ。学生が実際に自分で授業実践にアタックする「なすことによって学ぶ」学びの中で、実践的指導力は高まっていく。

道徳や社会科教育法では、何度も何度も模擬授業を。特別活動やゼミでは、公立中学特別支援級や県立養護学校の子どもたちとの交流会を企画し、実践してもらおう。成功体験だけでなく、挫折体験もよい。五感を通したその体験の中で、ほんものの授業力が育まれていく。



写真は、毎年ゼミで行く「カンボジアの子らへの日本語教育支援」での交流会の様子で



ある。学生は、これらの交流会を企画・準備・実践していく中で、「子どもたちを幸せに導く教師」になる力を豊かに逞しく身に付けていく。

4. 光り輝く

「正直なところをお話しすると、この一ヶ月、しんどかったです。たった一ヶ月ですが、子どもたちはいろいろな事件を起こしました。

・・・でも、それ以上にいいこともたくさんありました。『先生』と呼んでもらえること。緘黙で最初は問いかけに応じられなかった子が、慣れてニコッと笑ってくれるようになったこと。『せーんせっ』の声の後に背中に感じるドスンとした重み、『先生と一緒になら』と頑張れた子がいたこと、教室に入れば必ず『おはようございます』の声が聞こえてくること、『ベテランじゃないんだから仕方ないですよ』なんて子どもたちが言ってくれて、授業を2分延長させてもらったこと。

なんだかんだと言いながら、子どもたちは私を『先生』でいさせてくれるのです。

先生、赤坂ゼミに入ることができて本当によかったです。先生にたくさんのことを学び、ゼミ生とたくさん時間を過ごすことができたから、今の私がいます。本当にありがとうございました。私は今、しんどくて楽しくて充実した日々を過ごしています。」

教師になって一ヶ月、卒業生からの便り。この教え子たちの光り輝く姿に励まされ、私はまた、心を新たに、授業・ゼミに集中していく。